



開会式

第五十三回関東甲信越静地区子ども会育成協議会新潟大会は、本来令和二年の開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大により一年延期となり、さらに感染状況から参加者が一堂に会することは難しいとの判断で、県外からの参加者はオンラインでの参加による開催となりました。そのため一年延期というだけではなく、慣れない形での開催方法で、新潟県の皆様のご苦労は大変なものであったと拝察いたします。そのような状況の中で、今大会が無事終了いたしましたことに、新潟



「人間力」

公益社団法人全国子ども会連合会会長 河本 功

県子ども会育成連合会須田会長様をはじめ、全ての関係者の皆様に感謝いたします。

さて、「子ども会活動の意義と役割」について述べさせていただきま。本来、人間はすべての人が幸せになる権利をもって生まれてきます。現在は、核家族化が進み、自営業が減少し、家庭や地域で教育力が低下するなど生活環境・社会環境が大きく変化しております。だからこそ、近所での異年齢の子どもたちが子ども会活動をとおして、遊びや文化・レクリエーション・野外活動等により自然に対する畏敬の念を学んだり、集団活動をとおして、思い出や知識・能力・忍耐力・先輩に対しての憧れ・敬う気持ち・後輩に対してのいたわりや優しさなど、人としての「人間力」を子ども時代に身に付けておくことが大切です。

学校教育では、先生から知識を教えていただき、社会を生き抜くための武器として学力を身に付けます。そして、学力と同等若しくはそれ以上に大切なのが、他人との付き合い方であり、コミュニケーション能力・相手を見定める能力などです。



全体発表会

社会教育としての子ども会活動の意義は、子どもから大人まですべての人がそれぞれの考えやその答えを持つている先生でありますから、より多くの人と触れ合うことにより、多くの考えや答えを身に付けて、自分自身を成長させ、依存型の考えをもった子どもたちも、自己肯定感を身に付けるなど、自立型の懐の大きな人格者として成長していくものと確信をいたしております。

終わりに、新潟県子ども会育成連合会のみますのご活躍とご発展を祈念しております。



連携と体験活動の質の向上を

国立妙高青少年自然の家所長 小林 朋広

令和三年十一月当施設で、全国青少年体験活動推進フォーラムを開催しました。「Withコロナ時代における体験活動の質の高め方」をテーマに鼎談・分科会で活発な議論が交わされました。

分科会では、子供の体験不足の要因として、コロナ禍だけでなく、体験活動を提供する組織や指導者の不足も挙げられました。子供会でも、地域によっては、活動提供する支援者不足に困っていらつしゃるとお察しいたします。「子ども会と敬老会が共に参加する活動を企画すると、子供、保護者、高齢者が皆元気になる」等の意見を聞き、これからは行政、関係団体、施設等の垣根を越えて互いに連携し、不十分な部分をカバーし合うことが必要と再認識しました。昨年新潟青陵大学の先生に声を掛けていただき、企業で実施したボイスアウトのブースに当施設のクラブ活動を出展しました。団体・企業・施設・大学が連携した好事例です。連携すれば質の高い体験を提供できます。互いの持ち味を生かせるからです。



鼎談では、体験活動の質の高め方として、「季節の地域行事」「道草文化」「個別最適な学び」「体験格差の解消」等、子供会の活動でも大切にしたいことが提案されました。遊びや季節の行事は、子供会の活動そのものです。感性や人とかかわる力も高まります。学校教育では体験活動を大切にしていますが、子供たちの自立と成長のために、社会教育でも体験活動を充実させることが必要です。その際、体験活動のねらいや趣旨を明確にし、支える大人が共通理解して活動に臨むことや、大人の指示と盛り沢山の活動に終始するのではなく、子供たちが気付き、考える時間を十分確保してほしいです。また、ICT活用による離れた地域の同時体験、子供会同士つながりづくり等も、Withコロナ時代における体験活動の拡充の手段になります。

今こそ、連携と体験活動の質の向上を！



表彰者の推薦基準

- 【県子連表彰】
 - ・団体 ↓ おおむね7年以上でその業績が顕著な団体
 - ・個人 ↓ おおむね5年以上でその功績が顕著な個人
- 【全子連表彰】
 - ・団体 ↓ おおむね10年以上でその業績が顕著な団体
 - ・個人 ↓ おおむね20年以上でその功績が顕著な個人

今後の予定

- 第四十六回県子連総会 (黒崎市民会館) 五月十五日(日)
- 第一回理事会(新潟市東区プラザ) 六月五日(日)
- 県子連だより第二三八号発行 六月十日(金)
- 関プロ総会(長野市) 六月十二日(日) ～ 十三日(月)
- 第一回関プロJL実行委員会役員会(妙高) 六月十九日(日)
- 第一回関プロ推進研究会(東京) 六月二十五日(土) ～ 二十六日(日)

全子連表彰(令和3年度)

【令和三年度分】		【令和二年度分】	
表彰状	西原 一男	表彰状	見田 勉
感謝状	加藤 直子	感謝状	滝澤 悟
市町村名	長岡市	市町村名	新発田市
			上越市柿崎区

下越地区

地域活動を楽しむ

弥彦村美山子ども会

六年 阿部 朔頌



僕は毎年、地域の方と子ども会が合同でする夏祭りが大好きです。地域の方がやきとりや焼きそばを前日から準備をして作ってくれます。とてもおいしいです。子ども会では、たくさん景品を用意して手作りの輪投げや的あて・ビンゴゲームなどをやっています。みんなでかき氷を食べながら楽しみます。お祭りの最後は、地域の方と僕たちも一緒に豪華景品の抽選会で盛り上がりがあります。楽しい夏休みの思い出になっています。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため二年連続中止になりました。とても残念です。みんなでゲームや抽選会をやりたかったです。豪華景品を当てたかったです。

小学校四年生になると親と一緒に順番で月に二回、日曜日の朝にリサイクル倉庫に行きます。そこに持ち込まれるリサイクル品の仕分け作業をします。車でたくさん持ってくる方もいます。歩いてくるお年寄りもいます。車まで荷物を取りに行き、運ぶのを手伝うこともあります。持ち込まれたダンボールにテープが貼ってあれば全部取ってから積み重ねていきます。作業は細かいし、雑誌やダンボールは重くて大変です。でも地域の方から「ありがとう」「ごころうさま」「助かったよ」と言ってもらえると、うれしくなります。活動を続けているうちに、あいさつもできるようになりました。特に冬の当番は寒くて嫌です。雪が積れば、雪かき作業から始まります。雨が降っていたり寒かったりすると、早く終わってほしいと思うこともあります。でも、活動をしたあとは、地域の一員として少しでも役に立てたことや地域の方から声をかけてもらえたことが気持ち良く、うれしいので頑張っています。小学校六年間、子ども会でたくさん活動に参加できました。とても楽しかったです。中学生になっても地域活動に参加して楽しみたいと思います。

中越地区

モルックを遊ぶ子連だよりに参加して

十日町市荒屋子ども会

六年 恩田 夏椰

ぼくは、友達三人と子ども交流会に参加しました。一つ目によった遊びはモルックです。男子は先にモルックをして女子は先にカヌーとSUPをしました。男子たちのモルックでは、ちょっと練習したらずぐにトーナメント戦の試合がしたいと言って、トーナメント戦をすることにしました。ぼくたちが最初にあつたチームは、けっこう練習の時に上手だった人がいたチームで、ぼくたちは練習時間にあまり上手ではなかったたので、たぶん負けちゃうなと思いました。そして、最初の試合は、ぼくたちがきん張していたせいか、三回連続でミスして、モルックのルールとして失格になりました。ですが、強かったチームの人たちが「今のは練習としても一回やろう」と声をかけてくれました。でも、これでもしもぼくたちが勝ってしまったら、申し訳ないなと思いつつ進んでいき、気づいたら勝っていました。本当に試合の結果は、これでもいいのかと思いました。



申し訳ないと思っていたけど、決勝戦までたどりつき、なんとぼくたちは優勝しました。優勝賞品はおかしのつめあわせパックで、すごくうれしかったです。そして、お昼ご飯ではカレーを食べました。すごく美味しく体力が回復しました。最後にカヌーとSUPをやりました。ぼくは最初にどのくらいの深さなんだろうと思って質問してみたら、「かなり深いよ」と言われたので、もしも落ちたら大丈夫かな？と不安になりました。特にSUPは立って乗るのでかなり不安になりました。そして、最初にSUPに乗って見たら、予想通りバランスがとりにくかったです。でも、なれたら楽しくて、ずっと乗っていたい気分になりました。カヌーは最初からバランスがとりやすかったので、友達といっしょにカヌー鬼ごっこをやりました。子ども交流会に参加して、今までにやったことのない遊びを、たくさん体験できて良かったです。

佐渡地区

とんど

赤泊・若鮎子ども会

五年 中原 瑞稀

僕の住んでいる地域では、毎年成人の日に「とんど」という行事をしています。とんどというのは、家内安全や無病息災を願う行事のことです。

まず十二月十九日の午前中に銭ほうがんをしました。銭ほうがんは、集落に入っている人からお金をもらって、このあと作る柳やとどこの材料費にするそうです。銭ほうがんは子ども会の高学年の男子だけでまわります。毎年、二チームに分かれて集落をまわります。だいたい一時間から二時間で終わります。

その日の午後、柳作りをしました。柳には各家庭の安全の願いがこめられているそうです。柳は竹に色紙をはった物です。色紙は上からの金、銀、黄、赤、青、黒、白で青は縁、黒は青です。子ども会で集まって分館の中で柳を作ります。作る本数は百八十本です。一チーム二、三人で柳を作っていきます。人数が少ないので各チーム三十本ぐらい作ります。作る流れは色紙を切って、同じ間かくで切りこみを入れます。その後、用意してある竹にのりをぬって色紙

を巻いていきます。この作業だけでも二、三時間はかかりました。

十二月二十九日に柳配りをしました。柳配りは集落に入っている人に作った柳を渡しに行きます。柳配りも銭ほうがんと同じく、高学年の男子が二チームに分かれてまわります。まわる家の数は少ないですが三時間もかかってしまいました。

一月十日にとんどを作りしました。とんどは六本の竹の骨組に二だんの土台を作って、その上にわらをのせていき、竹でおおった物です。子ども会はわら運びと集落の松かざり集めを手伝いました。その後、お昼をはさんで一時間三十分で点火しました。きれいに燃えて良かったです。

今はコロナ禍であまりみんなが集まれるような所がなかったので、良かったと思います。



上越地区

自しゅくのちのちせき

頸城子ども会連絡協議会

三年 加藤 悠和

ぼくたちは、とうろう作りをしました。さいしょは竹で作りました。初めてのことで、うまくできるか心配でした。でも、かた紙をはりつけて、しるしのあるところにドリルであなをあけるといっ



かんたんそうなか作業だと聞いて、ほっとしました。でも、やってみるとむずかしかったです。なぜかという、竹が

かたくて、ドリルであなをあけるのが、たいへんだったからです。でも、さいごには、きれいにできました。他にも、牛乳パックを使ったとうろうを作りました。パッケージをはがすところが、むずかしかったです。これもきれいにできました。

そのあと、くびききぼう館で「くびきのあかり」というイベントがありました。ホールに入ると、いすにたくさんのおとうろうがかざられていて、どれもきれいでした。



ステージ近くでは、地区ごとに作ったとうろうがありまして、僕が作ったとうろうもあって、とてもうれしかったです。

コロナウイルスで自しゅくをしていて、その中でも、このようなことができたので、とてもいい思い出になりました。よかったです。

編集後記

立春を過ぎ、春の訪れが感じられる頃となりました。新型コロナウイルスは変異株の出現により、心配される状況が続いております。関フ口新潟大会は、無事終了いたしました。令和四年度は、関フ口推進研究会と関フ口安全啓発中級指導者育成講習会の担当県となっております。原稿をお寄せいただきました皆様、に感謝申し上げます。(文責：板垣)

【編集発行】

一般社団法人
新潟県子ども会育成連合会
〒九五一八二二
新潟市中央区白山浦一三〇〇
電話 〇二五一三〇五二九八
FAX 〇二五一三〇五二九二